

《担当者名》飯泉智子

【概要】

言語聴覚障害学の各論のひとつである摂食嚥下障害と介入について学ぶ。

【学修目標】

摂食嚥下障害とリハビリテーションについて学ぶ。

1. 摂食嚥下のメカニズムを説明する。
2. 摂食嚥下障害を疑うポイントを説明する。
3. 摂食嚥下障害の各種評価法を説明する。
4. 摂食嚥下障害のスクリーニング法を説明する。
5. 摂食嚥下関連器官の形態と機能の評価について説明する。
6. 嚥下造影、嚥下内視鏡の画像から問題点を抽出する。
7. 間接訓練、直接訓練を説明する。
8. 小児の摂食嚥下機能の発達の概要とその障害の特徴について説明する。
9. 小児の嚥下障害の対応法の基本的な考え方を説明する。
10. 摂食嚥下障害の外科治療、薬物治療について説明する。
11. 摂食嚥下障害がある人の栄養摂取方法について説明する。
12. 摂食嚥下リハビリテーションのリスクマネジメントについて説明する。
13. 摂食嚥下リハビリテーションの進め方について説明する。
14. 介入計画の立案について解釈する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	摂食嚥下障害の概要	摂食嚥下リハビリテーションの基本的考え方 摂食嚥下のしくみ 摂食嚥下機能の発達と加齢による変化 摂食嚥下障害の特徴	飯泉智子
6) 9	摂食嚥下障害の評価	摂食嚥下障害の評価・検査・診断 基本情報の収集 摂食嚥下器官機能検査 摂食嚥下機能検査 摂食場面の観察 スクリーニング等、各種検査 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査	飯泉智子
10) 15	摂食嚥下障害への介入	摂食嚥下障害への介入 概論：基本的な考え方 各論：基礎（間接）訓練 各論：摂食（直接）訓練 各論：代償栄養法 各論：医科治療と言語聴覚士の役割 摂食嚥下リハビリテーションのまとめ 評価、介入におけるリスクと対策	飯泉智子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題 20%

確認試験 80%

【教科書】

才藤 栄一 他 監 「摂食嚥下リハビリテーション 第3版」 医歯薬出版 2016年

【参考書】

尾本和彦 編 「障害児者の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション」 医歯薬出版 2005年

倉智雅子 編 「言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学」 医歯薬出版株式会社 2013年
聖隷嚥下チーム 著 「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」 医歯薬出版 2011年
Logemann J. A. 著、道健一 他 監訳 「Logemann 摂食・嚥下障害」 医歯薬出版 2003年
Kim, C. L. 他 著、金子芳洋 訳 「摂食・嚥下メカニズムUPDATE 構造・機能からみる新たな臨床への展開」 医歯薬出版 2006年
藤島一郎 他 監 「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」 中山書店 2010年
藤島一郎 他 監 「動画でわかる摂食・嚥下障害患者のリスクマネジメント」 中山書店 2009年
才藤栄一 原案監修 柴田斉子 原案 「リハビリテーション医学第2版 摂食・嚥下障害」 医学映像教育センター 2013年

【学修の準備】

解剖生理学、基礎人間科学、音声言語聴覚医学、内科学、歯科学総論、口腔外科学、耳鼻咽喉科学、神経学、言語聴覚障害学総論、言語聴覚診断学総論などの基礎科目の該当部分をよく復習しておくこと。(40分)
教科書の該当部分を一読して講義に臨むこと。(40分)
配付資料と教科書の重要な用語の定義を調べること。(40分)
配付資料内の問題を解き解説を作成すること。(40分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

飯泉智子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、摂食嚥下障害およびリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。